

トリジユクについて

古今東西の優れた戯曲の現代的な上演を通じて「今」の課題をあぶり出すこと、人間の体のエネルギーや想像力の無限の可能性を示すことは、演劇の場としての鳥の劇場の主たる仕事です。それと合わせて、演劇の「知」を使いながら上演以外の形で劇場が社会にどのように役立つかを示すことも、我々の活動の重要な柱です。このトリジユクプロジェクトはその中の一つ。

とはいえ、我々には学校教育の専門性はありません。そこで青山学院大学の苅宿俊文教授に、教育活動アドバイザーとしてご助言いただいています。苅宿先生と共有している目標は以下の二つです。

その一、子どもたちそれぞれの力に子どもたちが自信を持ち、どんどん伸ばせるようお手伝いをしたい。さらに、将来その個々の能力を組み合わせながら仕事に取り組めるよう、他の人と仕事をする技術も身につけてもらいたい。

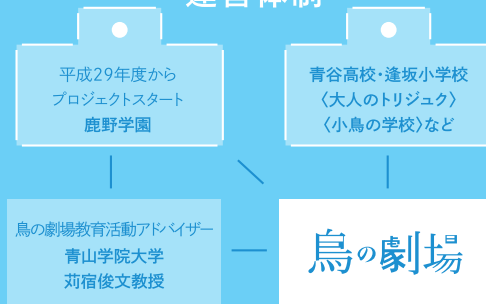
その二、このお手伝いを長く続けたい。人が変わるということは、コミュニティーが変わるということ。一方、コミュニティーが変わらなければ、人も変わらない。人・学校・地域が秘めたよき力をもっと引き出され、より豊かなものとして再編され結実していくのには少し時間がかかります。時間がかかることは時間をかけてやるしかないので、時間をかけよう。

社会の変化が学校教育にも大きな変化を求めています。私たちはこの取り組みを、学校教育を補完し、より発展させるものとして、多くの方にご理解いただき、ご体験いただければと考えています。関心がある方、試したいという方は、お気軽にご連絡ください。

鳥の劇場芸術監督
中島諒人



運営体制



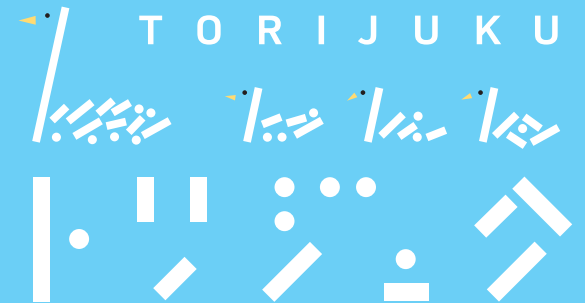
劇場近くの鳥取市立鹿野学園での実践を核に、苅宿俊文教授にご助言いただいています。苅宿先生は、研究者として最新の学習科学の知見を持たれ、同時に実践者としての情熱と経験を備えられた最高の同伴者です。

ワークショップ行います! /

「ワークショップに来てほしい」「学習発表会に生かしたい」など、どうぞお気軽にお問い合わせください。各種研修会や個人対象の「大人のトリジユク」など、大人向けにも行っています。



「生きる力を育む」演劇の
ワークショップ開発プロジェクト



〈トリジユク〉は、
ワークショップとふりかえりを
セットで行う、Artを使った
学びのプログラムです。



©高橋健太郎

連絡先

トリジユク

<http://torijuku.jp/>

鳥の劇場〈トリジユク〉担当:中川・藤木
TEL・FAX 0857-84-3268
info@birdtheatre.org

トリジユク



特定非営利活動法人 鳥の劇場

<https://www.birdtheatre.org/>

劇場 / スタジオ / 劇場事務所

〒689-0405 鳥取県鳥取市鹿野町鹿野1812-1

本町事務所

〒680-0031 鳥取県鳥取市本町1丁目201ミユースビル 2F

鳥の劇場



トリジユクは、日本財団と鳥取県の支援を得て、2017年より取り組んでいる事業です。

〈出会う〉ことは変化のきっかけ。

鳥の劇場のアーティストたちと出会って行う、非日常的な体験。体験を通して、自分の好きなことや苦手なことにも出会っていく。他者を通して、自分の知らない自分や他者に気づいていく...



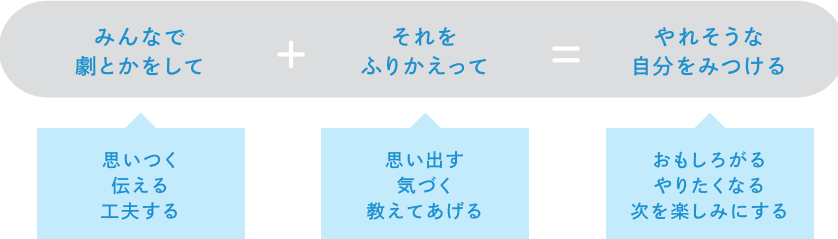
鳥の劇場の演出家や俳優たちが、ワークショップメニューを展開します



プログラム

芸術表現体験活動(ワークショップ)は、特定の正解があるのではなく、グループで自分たちが納得できる答えをつくり出していく活動です。そしてその体験を省察活動(ふりかえり)によって意味づけていきます。これらを組み合わせて行うことで、自己理解・他者理解を深め、これからの社会を生きていくために必要な「資質・能力」を育むことを目指します。

ワークショップ + ふりかえり = 資質・能力の
芸術表現体験活動 省察活動 発見、定着



出力型の学力を身につけるには、自分が体験することが必須。習慣型の学力を身につけるには、時間が個体差でかかる。ワークショップでは個体差を認めているので、学習方略としても注目されています。

人間関係形成・社会形成能力
 自己理解・自己管理能力
 非認知能力として着目すると、協調性・コミュニケーション力・主体性・自己管理能力・自己肯定感の要素が挙げられます。

スケジュール

〈ワークショップ〉+その翌日以降の〈省察&もっとやってみる活動〉が基本セットです。

基本セット 1回2コマ(90分~100分) 1回目 芸術表現体験活動(WS) + 2回目 省察&もっとやってみる活動 ... 最大7回まで可能!

成長のイメージ

	事前に	1回目	1回目実施後	2回目
鳥劇と先生	先生にヒアリングし、アーティストがWSを計画	WS実施	アーティストと先生で、省察活動の検討	省察活動と、もっとやってみる活動の実施
基本セット	P _{LAN}	D ₀	C _{HECK}	A _{CTION}
児童生徒	アーティストから出されたお題について、自分たちで打ち合わせます	実際にやってみて、自分たちの納得解をつくります	よかったところ、もっとよくしたいところなどをふりかえります	もう一度作品づくりに挑戦してみます
		1回目		2回目

